



護岸復旧作業前の災害状況を確認（鹿沼市 黒川 御成橋）



大雨で洗堀された川岸に連結ブロックを布設（日光市 田川）

らせると再認識されたことと思います。高い使命感を持って現場で作業をされているということが良く分かりました。

災害復旧活動に尽力

—平成27年9月の「関東・東北豪雨」で、皆さんは応急・復旧活動に尽力されました。その時の対応について、お聞かせください。

■**成田** 姿川の河川土工事で大型土のうや仮設道路を作りました。工期は9月11日から10月23日でした。堤防復旧の現場で、東武鉄道の橋脚が流されたところで、鉄道復旧に合わせて早く完了させるというプレッシャーがありました。対岸は田んぼでしたが、地主さんの協力で搬入口を作ることができたことは、今も感謝しています。搬入口や現場も二次災害がなく工期内に終わりました。

■**古屋** 日光市内は、台風による大雨で田んぼの土手が崩落し、復旧工事を行いました。土砂で埋もれたU型水路を布設替えし、崩落した法面を補強した後、大雨で流出した土砂を法面整形に利用するなどの方法を取り入れました。

■**松本** 田川で崩壊した川岸を連結ブロックで覆い護岸復旧する作業や流木撤去を行いました。ちょうど、田植え時期と重なり時間帯で変化する水量に対応した水替え作業は慎重を期しました。また、重機の移動や資材を置くスペースの制限にはとても苦労しました。



上野勝弘 副委員長

■**磯田** 鹿沼市の黒川で工事を行いました。鹿沼市御成橋上流部は台風の影響で河川が氾濫し、護岸が洗掘され人家が流されるなどの被害が出ました。工期は9月13日から30日でした。被災箇所まで行く道路がなかったのでまず仮設道路を作り、その後、大型土のう約1,000袋を製作・設置しました。また、根固めブロック約150個を設置し、休日返上で作業を完了後、地元の方々から感謝の言葉を頂きました。

■**荒川** 鹿沼市奈佐原町で黒川の河川掘削工事を行いました。工期は約5か月間で、河川の中にある竹、木、土砂を取るという工事でした。

■**田嶋** 豪雨発生時から道路パトロール、通行止めの措置、通行車両への説明などを行いました。豪雨終了時は円滑な交通解放に向けての土砂撤去などをしました。工期は9月9日から10月6日でした。

—最後に吉田、上野両副委員長、岩原委員長、一言ずつお願いします。

■**吉田** 「地域の守り手」として自分がやらなければという使命感を持って取り組んでいる事を心強く感じました。皆さんの活動にこれからも期待します。



吉田亘 副委員長

■**上野** 皆さんの本音を聞くことができ私も感じるころがありました。社会資本の整備は地味で、苦労も多いですが、自らの生業（なりわい）に自信と誇りを持ち、積極的に発信してください。

■**岩原** 皆さんのお話を聞いて「地域の守り手」としての意識が良く伝わってきました。今後も活躍してください。



崩落した法面補強で流出した土砂を利用（日光市 岩崎地内）



河床に根固めブロックを布設（鹿沼市 行川）